

## 第 27 回 三重河川流域委員会 議事要旨

日時：令和 7 年 1 月 21 日（火）13:30～15:30

場所：三重河川国道事務所 3F 災害対策室

### 1. 開会

### 2. 挨拶

### 3. 議事

#### (1) 三重河川流域委員会規約改定

- 事務局案にて了承された。

#### (2) 三重河川流域委員会での事業評価の審議予定

- 事務局案にて了承された。

#### (3) 鈴鹿川、雲出川、櫛田川、宮川水系河川整備計画の点検(事業進捗状況の報告)

- 水辺の国勢調査に関して水系全体での全体種数の増減について資料に記載があるが、調査箇所ごとに確認種数があると思うので、各箇所別でのデータの集計を行い、河川整備を行った区間で減少しているのか、河川を通して全体的に減少しているのか確認をしてほしい。
- 河川整備箇所は環境負荷があるかと思うので、整備区間で抽出をして事業前後での種数の比較を行い、結果を踏まえて環境に対する影響を判断し今後の河川整備に活かしてほしい。

→来年度の鈴鹿川の再評価に向けて、例えば鳥類については直近 2 回の H22 と R2 の調査結果を比較し、事業の実施箇所と重ね合わせるなど確認をしていく。

- 植物の重要種の増加について、確認種数が増えることはよいことである。重要種の保護のため、確認箇所の情報発信については、注意をお願いしたい。
- 河道掘削や樹木伐採について、(植物に限らず) 重要種が確認されている場所で計画があるならば保全措置をとってもらいたい。また、鳥類に関しても繁殖期を避けるなど配慮をしてほしい。
- 数年前にも意見として出ていたが、樹木伐採等の際本来は移動能力の少ない昆虫や植物の調査を行い、重要種がないことを確認してから工事を行ってほしい。

→工事の関係者に対し貴重種のいる箇所を共有し、対策を実施してきており、引き

続き配慮してまいりたい。

- 浚渫について再堆積は発生していないか。  
→河床変動計算を用いた再堆積の防止を見据えた掘削方法の検討や、高水敷に土砂が堆積し滲筋が侵食する二極化が進む箇所では高水敷の切り下げにより全体的に水を流すことで再堆積を防ぐ取り組み等工夫を行っている。
- 橋梁の架け替え等の話はないのか。  
→整備計画策定時に架け替えを予定している箇所もあるが、費用等の問題から調整が進められていないのが実情である。橋梁の架け替えを行わずに河道拡幅ができないかシミュレーション等使った検討を進めている。また、横断工作物では鈴鹿川の頭首工の統合等について、関係者との協議を進めている。
- 橋梁や横断工作物の改築については、国交省のみで決定できる事項でもないため、課題は課題として認識はしておいてほしい。
- 佐奈川の水質が悪いが原因は分かっているのか。  
→原因ははっきりしていないが、水質の改善に向けた多気町や流域の事業者との連絡調整を実施してきている。佐奈川や勢田川は水量が少なく、水質が悪化しやすいことも要因であると考える。
- 雲出川についてのみ遊水地についての記載があるが、流域治水の先進的な取り組みとして雲出川の計画にのみ入っているのか。  
→雲出川のみ整備計画に遊水地が位置づけられているほか、支川が特定都市河川に指定されており、流域治水の取り組みを先進的に進める川として遊水機能の活用を進めている。他河川についても気候変動を踏まえて河道の整備のみでなく適地があれば遊水地の検討をする。
- 流下量の確保のためには樹木伐採はある程度行う必要があるが、伐採後の環境への影響は上流部と下流部で異なるのではないか。河口部周辺では伐採後にかつての重要群落時代の植生に戻るなどの事例もあり、樹木伐採が必ずしもネガティブな影響を与えるわけではなく、樹木伐採などの環境への影響について調査しているのか。  
→櫛田川の自然再生事業では高水敷の切り下げにより、外来植物を減らすなど、環境の創出を行い、モニタリングを進めていく。伐採により過去の種子が発芽し植生が戻ってくることについてはある程度確認している。他の箇所でも水辺の国勢調査を活用し、樹木伐採の影響について確認していく。

- センダン群落が確認されていることについて、何か理由はあるか。  
→センダンは暖地性の樹木で、近年の温暖化の影響もあり、東海地方でも増えてきているようである。
- 堰の改築に関して、堰により川が分断されると上流部は魚が生息できる環境があっても生息できない。北海道の事例では堰の撤去や中央部を切るなどの取り組みにより上流部まで魚が回遊するようになり、川全体での魚類資源量が2倍となった事例もある。

• 堰が整備されていない環境においては整備の際に上下流の連続性は保てるよう検討してほしい。整備をするにあたって川魚の専門家や漁業関係者の意見を聞きつつ設計をしてほしい。  
→魚道など堰の利用と魚の遡上の両立ができる技術もあるため検討していきたい。
- 堆積土砂の掘削の際にアユなどの産卵床を壊さない、また新たに創出するようにしてほしい。  
→産卵床については各河川で存在を確認しており、配慮している。どうしても産卵床のある箇所を掘削しなければならない際は別箇所への移動や石の粒径に配慮し新たに創出を行う。
- 三重県内ではカナダモなど外来種の藻類が増加している川もあり、川の水中の外来種についても配慮を進めてほしい。水産庁の予算で駆除しているような川もある。  
→流量の確保など、藻の抑制や外来種対策を検討していく。
- 鈴鹿川由来のアユが他水系で繁殖していることもあるため、砂が多く難しいと思うが鈴鹿川の環境整備が他水系のアユの個体数増加にもつながると思うので配慮してほしい。
- かわまちづくりに関して宮川以外でも実施していないのか。親水が主かと思うが、水辺の楽校周辺の史跡など含めた総合的なかわまちづくりは行っていないのか。  
→玉城町内の田丸城など史跡を利用した周遊観光の拠点の一つとしてまちづくりに活かす方針となっている。
- 水生生物調査の小学校の公募はどのように行っているのか  
→宮川周辺の小中学校と直接の交渉や、教育委員会を通しての周知をしている。

- 水生生物調査について総合学習において活用してもらえると小中学校側にもメリットがあるため、継続して進めてほしい。

#### 4. 話題提供

- (1) 最近の河川事業を取り巻く話題

#### 5. 閉会

以上